

投稿規程

I. 投稿資格, 条件

1. 投稿は会員に限ります。ただし編集委員会の承認をへて非会員への依頼原稿を掲載することはあります。
2. 原稿は未発表のものに限ります。
3. 一本の原稿を分割して複数の号に投稿するのは不可とします。
4. 同一の著者が別の書評か別の短報を連続する和文誌ないし連続する欧文誌に掲載するのはさまたげません。
5. 同一の著者が別の論文ないし研究ノートを連続する和文誌ないし連続する欧文誌に掲載するのはさまたげませんが、連続する号に掲載するかどうかは、内容の審査や投稿状況に基づき個別に判断します。
6. 和文誌と欧文誌は別扱いとします。したがって、同一の著者が別の原稿を同年出版の和文誌と欧文誌の両方に掲載するのはさまたげません。

II. 原稿の種類と制限

1. **原稿の種類**：会員が投稿できる原稿は、「論文」「研究ノート」「研究動向」「書評」「短報」の5種です。
「論文」に分類されるのは、新資料の研究・刊行、新解釈の論証などを内容とし、独自の学問的貢献が強く認められるものです。新しい発見や資料の予備的・暫定的な報告、新解釈を提示していても十分な論証を伴わないもの、その他の萌芽的論考は「研究ノート」になります。「研究動向」は、研究課題の整理、研究史の回顧と展望、レビュー論文等を広く含みます。「短報」では、学問的な内容と水準を有していれば、調査や学会参加の速報、新発見の報告、考証、提言、批判、反論など、幅広い内容の原稿を受け付けます。

投稿者は掲載を希望する種別を明記のうえ投稿してください。ただし、種別の最終的な判断は、編集委員会が行います。

2. **原稿の分量制限**：400字詰め換算で上限を「論文」「研究ノート」「研究動向」は50枚、「書評」は20枚、「短報」は10枚とします。ただし、「論文」「研究ノート」については、50枚をこえる原稿でも、扱う資料の分量などを斟酌して正当な分量であると編集委員会が判断すれば、90枚を上限として掲載を認めます。

上の制限枚数の中には、本文、注、参考文献、図版類、表をすべて含めるものとします。本文、注、参考文献については、総文字数ではなく、1行40字に原稿の体裁を整えた場合の10行分を1枚と計算します。図版類と表は版面に収めた1頁分を400字詰め換算で4枚と計算します。これらを合わせた原稿の枚数を投稿の際に明記してください。

3. **図版類に関する制限**：図版類は原則として10点を上限としますが、10点をこえる場合は、あらかじめ編集委員会にご相談ください。

図版類の掲載に必要な許諾は、J-STAGEによるオンラインでの発信の許諾も含め、必ず執筆者の責任で資料や著作権を所有する個人や機関から前もって取得してください。

III. 原稿の投稿方法

1. **締切日**：原則として毎巻第1号は3月15日、第2号は8月31日に締め切ります。
2. **提出書類**：下記の書類を郵便、電子メール（10MB未満の場合）、オンラインストレージなど（10MB以上の場合；別途メールでも連絡をお願いします）で事務局にご提出ください。送付後10日たっても事務局から受領確認メールが届かない場合、事務局にご連絡ください。
 - i) **原稿の電子ファイル**：本規程IV「投稿原稿の体裁」に従って作成したWord文書ないしTEXTファイルをお送りください。手書き原稿はご遠慮ください。
 - ii) **PDF**：図版や表も含めた原稿全体を単一のファイルにしたPDFをお送りください。特殊フォントをご使

用の場合、それらがインストールされていない環境でも文字化けしないことを必ずご確認ください。PDFの代わりにA4用紙に片面印刷した打ち出し原稿3部を郵送していただいてもけっこうです。打ち出し原稿の両面印刷はご遠慮ください。

iii) **表紙**：下記の事項を明記してください。なお、表紙は原稿の枚数に含めません。

- ①原稿の題名・種別・総枚数・図版類の数（本規程II参照）
 - ②執筆者の氏名（ローマ字表記を添える）
 - ③所属機関・部局名と身分／職名（英訳を添える）。所属機関のない方は「本学会会員」（Member of the Society for Near Eastern Studies in Japan）とお書きください。大学に所属する会員の場合は、大学（院）名・部局名（学部もしくは研究科）・身分（大学院生の場合には課程名）までを記してください。大学院生の英文表記は Graduate Student としてください。
 - ④連絡先：住所、電話番号（自宅および携帯電話）、ファクス番号、メールアドレス。
 - ⑤執筆者が複数の場合には、校正等の責任者（1名）の氏名にアンダーラインを付してください。
 - ⑥留学や出張等で住所変更が見込まれる方は、新しい連絡先もお書きください。
 - ⑦原稿が未発表であるかの判断にあいまいさが生じるような事情がある場合（オンラインで公表されているワーキングペーパーの改訂版である、以前に発表した論文と内容的に重なる部分が相当程度ある、といった場合）には、その旨をお書きください。
- iv) **理由書**：400字詰め換算で50枚をこえる「論文」「研究ノート」を投稿なさる場合には、理由書をご提出ください（題名「50枚以上の紙数を要する理由」；書式自由〔ただし文中で実際の枚数に言及してください〕；無記名〔題名のみ明記〕）。

IV. 投稿原稿の体裁

1. 原稿はA4サイズの横書きとし、本文も本文以外（注、参考文献表など）も1頁40字×30行を目安として作成してください。題名は表紙だけでなく原稿にも記入してください。氏名と所属は査読の匿名性を高めるため表紙だけに記し、原稿には記入しないでください。原稿（表紙は除く）にページ番号をふってください。
2. 節の見出し番号は、上位の節から「I.」（ローマ数字大文字とピリオド）、「1.」（アラビア数字とピリオド）、「i）」（ローマ数字小文字と片丸括弧）としてください。「はじめに」「序論」「おわりに」「終章」等にも節番号を付してください。
3. 歴史的名辞や術語、および引用文などを除いて、常用漢字と新仮名遣いを用いて執筆してください。ラテン文字以外の文字は原則として使用せず、すべてラテン文字に転写してください。アラビア語・ヘブライ語等のアインは「^ع」（02BF）を、アリフ・ハムザ/アレフは「^ا」（02BE）を使用してください。
4. 外国語の固有名詞や術語の原音表記については、ラテン文字による転写は初出時のみとし（下記の例示を参照）、原則として片仮名を用いて下さい。術語を訳す場合も、ラテン文字による転写は初出時のみとします。

[例] 固有名詞：アブー・マドヤン（Abū Madyan Shu‘ayb ibn Ḥusayn）

[例] 術語：ファナー（fanā’），聖者性（walāya）
5. 数字の書き方は、下記の例示に従ってください。年号は原則として西暦で示し、必要に応じてその他の暦法によるものを補ってください。数字と数字の間は、ハイフンではなく、en-ダッシュ記号を使用してください。

[例] 年代：1945年 1945-48年（1945-8年としない）

[例] 数量：48回，1,127人
6. 図版類には、通し番号を付し、出典のある場合には必ずその旨を明記してください。実測図・地図にはスケールを配し、地図には方位も付けてください。
7. 「本稿は、…に加筆修正を加えたものである」というような文言や謝辞は本文の末尾（参考文献表がある場合は、

その前)に配置してください。査読の匿名性を高めるため、謝辞は投稿段階では省き、掲載決定後に加筆してください。

8. 注には通し番号を付し、各ページの下に配置してください(脚注形式)。本文中の注の番号は、本文に上付き文字のアラビア数字で入れてください。

[例] …である⁴。

9. 参照文献の表記法は、原稿内の統一に十分注意のうえ、本規程の後に掲げる参照文献表記法に従ってください。

V. 採否

1. 投稿していただいた原稿は、形式に著しく不備がある場合を除いて、編集委員会で審査のうえ、採否ならびに掲載の時期を決定して、執筆者に通知します。審査不適および審査後不採用の原稿はお返しします。また、審査の結果、原稿の書き直しをお願いすることがありますので、ご承知おきください。ちなみに、審査は以下の観点を中心に行われます。

- i) 原稿は規程に厳密に則って作成されているか。
- ii) 表題は、内容から見て適切か。
- iii) 内容的に、学界への独自の寄与・貢献が認められるか。
- iv) 論旨は明確で、論述に無理や矛盾はないか。
- v) 文章は読み易く、原稿の長さも適切か。
- vi) 図・表の体裁、数、内容、本文中での扱い方は適切か。

2. 掲載決定後に下記の書類を郵便ないし電子メールでご提出いただきます。刊行後に返却を望むものがある場合は、事務局までその旨ご連絡ください。

- i) **入稿原稿**：本文も本文以外(注、参照文献表など)も1頁40字×30行を目安として作成したWord文書ないしTEXTファイル、および本規程III.2.ii)に応じて作成したPDFをお送りください。PDFの代わりにA4用紙に片面印刷した打ち出し原稿2部を郵送していただいてもけっこうです。

特殊文字については、参照文献表記法の書式例を参考にマークするなどして、注意を喚起する工夫をしてください。学会事務局から送られるチェックリストを参考に遺漏のないよう原稿を仕上げてください。

- ii) **要旨とキーワード**：英文要旨(300語以内、英文題名を添える)、それに対応する和文要旨、およびキーワード(日本語と英語、セットで5個)をお送りください。英文要旨は、A4用紙にダブルスペース(1頁24行前後)で、かつ上下左右ともに少なくとも3cmの余白をとって作成してください。英文のネイティブチェックを受けたか否かを明記してください。チェックの済んでいないもの、およびチェックの不十分なものについては、再度のチェックをお願いすることがあります。編集委員会にネイティブチェックを依頼することも可能ですが、その場合は、校閲料3,500円にて申し受けます。

- iii) **図版類の完全原稿**：原稿に図版類が含まれる場合、表題や説明文も含めて横15cm×縦22.8cmに収め、そのまま製版できる完全原稿(鮮明な打ち出し原稿ないし高解像度の電子データ)をお送りください。そのまま製版できる完全原稿がない場合、製版費用が執筆者の負担となることがあります。

- iv) **参照文献一覧**：参照文献を注であげる場合にも、参照文献一覧を別途ご提出ください。その際、稿末に参照文献表をつける場合(ハーバード方式)の書式に従い、Word文書ないしTEXTファイル、および本規程III.2.ii)に応じて作成したPDFを作成してください。PDFの代わりにA4用紙に片面印刷した打ち出し原稿1部を郵送していただいてもけっこうです。

- v) **表紙**：III.2.iii)に示した①から⑥を含むもののご提出をお願いします。

VI. 校正

1. 執筆者の校正は、原則として初校限りとします。校正にあたっては、事務局よりお送りするガイドラインに従っ

てください。

2. 校正時における加筆・削除・訂正は、ほぼ同一字数内での差し替えを原則とし、数行にわたる組み替えを必要とするようなものは認められません。
3. 数行にわたる組み替えを必要とするようなものについては、掲載をお断りすることがあります。
4. 校正返却の期限を厳守してください。

VII. 抜刷

1. 「論文」「研究ノート」「研究動向」「書評」「短報」の執筆者には、掲載誌1部とPDF形式の抜刷を無償で提供します。
2. 印刷された抜刷をご希望の方には、実費で提供いたします。実費の目安は1部500円程度ですが、ページ数によっても異なるため、学会事務局にお問い合わせください。
3. 掲載論文等のPDF版抜刷について、執筆者は下記の内容に同意し、厳に個人的目的に限定して使用することとします。
 - 掲載論文等の著作権は日本オリエント学会に帰属する。
 - 自著等に転載する場合、学会の許諾を得ること。
 - PDF形式の抜刷は執筆者自身が印刷用に使用することができる。
 - PDF形式の抜刷は個人にメールや記録メディアを介して送付することができる。
 - PDF形式の抜刷を学会の許可なくウェブサイト等に公開しないこと。
 - PDF形式の抜刷を学会の許可なく改変しないこと。

VIII. 著作権

掲載論文等の著作権は、日本オリエント学会に属します。

IX. その他

その他不明の点は、ご遠慮なく学会事務局または編集委員会にお問い合わせください。

(2021年8月1日改訂)

『オリエント』 参考文献表記法

I. 一般的な注意事項 (□は全角スペースを示す)

1. 著者名等は日本語文献では氏名を、外国語文献では原則として個人名のイニシャルと姓を示します。
2. 著者名等が2名の場合は、下記の例示のように、日本語文献では「,」(カンマ)、外国語文献では「and」でつないでください。3名以上の場合は原則として筆頭著者の氏名に続けて「他」ないし et al. と表記します。

[例] 井上順孝, 大塚和夫 (編) W. W. Hallo and W. K. Simpson
大貫良夫他 M. Gaborieau et al. (eds.)
3. 外国語文献の書名と雑誌名をイタリック体で表示できない場合には、アンダーラインを付してください。
4. 副題は、日本語・外国語文献ともに、主題の後に、「—」(ダッシュ記号)ではなく「:」(コロン)で区切って記してください。
5. 雑誌名、史料名などを略号で挙げる場合は、略号表を付すか、略号使用にあたって準拠した文献名を明記してください。
6. 日本語文献では出版社名のみを、外国語文献では出版地と、必要と認める場合には出版社を示してください。
7. 頁の指示は、原則として頁を示す略号を用いずアラビア数字のみで行い、複数頁にわたる場合の最終頁についても数字を省略せず示してください。なお、他の数字との間で混乱をきたすおそれのある場合に限り、略号 p. (複数頁の場合は pp.) の使用を認めます。数字と数字の間は、ハイフンではなく、en-ダッシュ記号を使用してく

ださい。

[例] 176-179

8. 第2版以降の版番号を示すときは、出版年の右肩に上付き文字で示して、必要ならば初版発行年を括弧書きで併記してください。
9. 外国語文献（雑誌は除く）の巻数・図版の出典を示す場合は、英語については下記の例示に従い、その他の言語および例示のないものについては適宜、一般的な方式に従ってください。

[例] vol. 5 5 vols. pl. 4 fig. 3

10. 同書、上掲書、上掲論文、ibid., idemなどの使用は極力避けてください。

II. 稿末に参照文献表をつける場合（ハーバード方式）の注意事項と書式例

1. 外国語文献はアルファベット順、日本語文献は五十音順に配列し、外国語文献の一覧を先に置きます。
2. 原則として、本文および注において言及のなされた文献を一覧にあげます。
3. 原則として出典だけを示す注は付けず、本文中で下記の例示のようにして文献を参照してください。本文中では「(編)」や「(ed.)」は省略します。

[例] (Gaborieau et al. 1990) (小杉 1996, 24; Gellner 1969, 6-28, 44f.)

4. 副題、第2版以降の版番号は必須ですが、シリーズ名、原著書誌、邦訳書誌、複数出版地・出版社、刊年の西暦換算等を示すか否かは、必要に応じて執筆者が判断します。
5. 書式例

Alloula, M. 1986: *The Colonial Harem*, M. Godzich and W. Godzich (trans.), Minneapolis: University of Minnesota Press. (*Le harem colonial: Images d'un sous-érotisme*, s.l.: Galance, 1981.)

Boboxonov, S. Z. and A. Mansur 1993: *Naqshbandiyya tariqatiga oid qo'lyozmalar fihristi*, Tashkent.

Driver, G. R. 1969: "Some Uses of *qtl* in the Semitic Languages," in *Proceedings of the International Conference on Semitic Studies Held in Jerusalem, 19-23 July 1965*, Jerusalem: Israel Academy of Sciences and Humanities, 49-64.

Driver, S. R. 1998: *A Treatise on the Use of the Tenses in Hebrew and Some Other Syntactical Questions*, Grand Rapids, MI and Cambridge: Eerdmans, reprint of 1892³ ed. with an introductory essay by W. R. Garr.

Es'ad Efendi, Sahaflar Seyhizade 1293 AH² (1243 AH): *Üss-i zafer*, Istanbul: Matba'a-i Süleyman Efendi.

Escovitz, J. H. 1984: *The Office of Qadi al-Qudat in Cairo under the Bahri Mamluks*, Berlin: K. Schwarz.

Gaborieau, M. et al. (eds.) 1990: *Naqshbandis: Cheminements et situation actuelle d'un ordre mystique musulman: Actes de la table ronde de Sévres 2-4 mai 1985*, Istanbul: Edition Isis.

Gellner, E. 1969a: "A Pendulum Swing Theory of Islam," in R. Robertson (ed.), *Sociology of Religion: Selected Readings*, Harmondsworth: Penguin, 127-138, first published in *Annales Marocaines de Sociologie* 1 (1968), 5-14.

Gellner, E. 1969b: *Saints of the Atlas*, London: Weidenfeld & Nicolson.

Hallo, W. W. and W. K. Simpson 1998² (1971): *The Ancient Near East: A History*, Fort Worth: Harcourt Brace College Publishers.

King, A. J. 1976: "Law and Land Use in Chicago: A Pre-history of Modern Zoning," Ph.D. dissertation, University of Wisconsin.

Lane, E. W. 1978 (1836): *An Account of the Manners and Customs of the Modern Egyptians: Written in Egypt during the Years 1833-1835*, The Hague: East-West Publications, reprint of 1895 ed. (ウイリアム・レイン 1964: 『エジプトの生活：古代と近代の奇妙な混淆』抄訳、大場正史(訳)、桃源社.)

Muhammad b. Munawwar 1987 CE/1366 AHS: *Asrār al-tawhīd fī maqāmāt al-shaykh Abī Sa'īd*, ed. by Muhammad

Riḍā Shaffī-yi Kadkanī, vol. 1, Tehran: Āgāh.

Nasr, S. H. 1963: "Fakhr al-Din Razi," in M. M. Sharif (ed.), *A History of Muslim Philosophy*, vol. 1, 642–656.

Palmieri, A. 1981: "Excavations at Arslantepe (Malatya)," *Anatolian Studies* 31, 101–119.

Rahman, F. 1979² (1966): *Islam*, Chicago and London: University of Chicago Press.

Sharif, M. M. (ed.) 1963–66: *A History of Muslim Philosophy: With Short Accounts of Other Disciplines and the Modern Renaissance in Muslim Lands*, 2 vols., Wiesbaden: Harrassowitz.

Tsukimoto, A. 2010: "Peace for the Dead, or *kispu(m)* Again," *Orient* 45, 101–109.

Waley, M. I. 1993: "Contemporary Disciplines in Early Persian Sufism," in L. Lewisohn (ed.), *Classical Persian Sufism: From Its Origins to Rumi*, London: Khaniqahi-Nimatullahi Publications, 497–548.

イブン・バットゥータ□1999:『大旅行記』4, イブン・ジュザイイ(編), 家島彦一(訳注), 平凡社.

大貫良夫他□1998:『人類の起原と古代オリエント』世界の歴史1, 中央公論社.

小杉泰(編)□1996:『イスラームに何がおきているか:現代世界とイスラーム復興』平凡社.

高宮いづみ□1999:『古代エジプトを発掘する』岩波書店.

常木晃□2003:「ハラフ文化の研究」博士論文, 金沢大学.

野田恵剛□1999:「古代ペルシア語の能動と受動」『オリエント』42/1, 19–28.

バーバー, エリザベス・W□1996:『女の仕事:織物から見た古代の生活文化』中島健(訳), 青土社.(E. W. Barber, *Women's Work: The First 20,000 Years: Women, Cloth and Society in Early Times*, New York: Norton, 1994.)

前田徹□1998:「初期メソポタミア社会論」前川和也他『オリエント世界:–7世紀』岩波講座世界歴史2, 岩波書店, 191–209.

III. 参考文献を注であげる場合の注意事項と書式例

1. 原則として「II. 稿末に参考文献表をつける場合(ハーバード方式)の書式」に準ずるが, 著者名の姓名順と出版年を示す位置が異なります。

2. 同一の文献を繰り返し参照する場合, 2回目以降は, 著者の姓と適宜省略した文献名を用いて示します。

3. 複数の文献を続けて示す場合は, 「;」(セミコロン)で区切ります。

4. 書式例

(28) 大貫良夫他『人類の起原と古代オリエント』世界の歴史1, 中央公論社, 1998; エリザベス・W・バーバー『女の仕事:織物から見た古代の生活文化』中島健(訳), 青土社, 1996 (E. W. Barber, *Women's Work: The First 20,000 Years: Women, Cloth and Society in Early Times*, New York: Norton, 1994) など。

(29) J. H. Escovitz, *The Office of Qadi al-Qudat in Cairo under the Bahri Mamluks*, Berlin: K. Schwarz, 1984, ii–ix.

(30) *ibid.*, 3–7.

(31) E.g. E. Gellner, "A Pendulum Swing Theory of Islam," *Annales Marocaines de Sociologie* 1 (1968), 5–14; *idem*, *Saints of the Atlas*, London: Weidenfeld & Nicolson, 1969; M. M. Sharif (ed.), *A History of Muslim Philosophy: With Short Accounts of Other Disciplines and the Modern Renaissance in Muslim Lands*, vol. 1, Wiesbaden: Harrassowitz, 1963, 646.

(32) 野田恵剛「古代ペルシア語の能動と受動」『オリエント』42/1 (1999), 19–28; 前田徹「初期メソポタミア社会論」前川和也他『オリエント世界:–7世紀』岩波講座世界歴史2, 岩波書店, 1998, 193–198.

(33) Cf. Escovitz, *The Office of Qadi al-Qudat*, iv–xii.

(2021年8月1日改訂)